

国語科学習指導案

指導事項

目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読むこと

今回の取り組み（挑戦）

もんしろちょうと言う言葉を数えることを手がかりに、この文章における筆者の主張を明らかにしていく。（繰り返し出てくる言葉を数えるというだけで、文章全体が見えてくる。）

1 教材名 花を見つけるてがかり（教育出版）

2 目標

実験の筋道をたどりながら読み、そこから明らかになったことを説明することができる。

3 学習計画

一次：学習の見通しをもつ。（教師の範読を聞き、内容に興味関心をもつ ①

二次：題名について考え、本文中のもんしろちょうの言葉の数を確かめる。 ①

形式段落に小見出しをつける ①

一番大事な「もんしろちょう」の書かれている段落を考えることで、段落の役割をつかむ。 ①

三つの実験の概要と結果を整理する。 ①

⑮段落の必要性を考え、筆者の主張を読み取る。 ①

三次：もんしろちょうが、四つの花に集まる理由を説明する文を書く。 ①

（指導案なし）

4 9時間予定

読み取り：6時間

書く：1時間

伝国：1時間

テスト：1時間

1時間目 学習の見通しをもったり、教師の範読を聞き、内容に興味関心を持ったりする。

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 単元のめあて、「実験のすじみちをたどりながら読みましょう。」 本時のめあて「花を見つける手がかりの感想をイメージマップにまとめる	5	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。 集中して試写する習慣が身に付くように、5分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。 さらに、学習の最後には、感想を伝えあうことを、口頭で伝える。	

ことができる。」を確認する。			
2 本文の範読を聞く。	10	・全文の範読を聞く。 大体の筋をまとめること、感想をまとめることを予告しておく。	
3 説明文のおよその内容を確認する。	5	・もんしろちょうは、色を手がかりにして花を見つけることを説明している。 ・ここは、あまり深入りしなくてよい。挙手をさせて、何人かに発言させていく。	
4 感想をイメージマップにまとめる。 *ノートに書く5分 交流2分 一斉3分 程度で、行うとよい。	15	・感想をノートに書かせていく。イメージマップの形で書かせる。 ・全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。 *イメージマップとは、ノートの真ん中に楕円を書き、その周りに感想を書くやり方。	感想をイメージマップにまとめている。 (ノート・発言)【読む】
5 p129「ここが大事」を確認する。	5	・説明文を読むときに意識することを確認する。	
5 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

2時間目

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「この説明文のキーワードを確かめよう」を確認する	5	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。 集中して視写する習慣が身に付くように、3分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。 ・形式段落に番号を付けさせる。その際、段落についての説明は次のように行う。	
2 本文の音読をする。	10	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・本時で取り扱う段落をもう一度音読する。	
3 形式段落に番号をつける。	5	・段落とは、文章中の内容のひとまとまりであること、いくつかの文が集まって段落ができていること、段落の始めは一字下げて書き出し、その段落が終わると行を変えることを、既習事項として確認する。(3年生の教科書で説明してある。)	

		・形式段落に番号をつける。15段落あることを確認する。	
4 この説明文で、花を見つけようとしているのは何かを考えたり、すぐに答えられた理由を発言したりする。	5	・花を見つけようとしているのは何か児童に聞く。子どもたちが「もんしろちょう」と答えたら、題名に「もんしろちょう」を補う。その後、どうしてすぐに答えられたのか、質問する。	
4 「もんしろちょう」という言葉の数を数える。	15	・もんしろちょうという言葉の数を数えることにより、説明文を読んでいくときは、繰り返し出てくる言葉に目を向けることが大切であることを説明する。繰り返し出てくる言葉を「キーワード」と言うことも確認する。 ・3～4分数えさせ、「もんしろちょう」と言う言葉は、何回出てきたか質問する。 ・20回であるが、子どもたちの意見は様々になると思うので、段落ごとに確認していく。 ・形式段落1～15をノートに書かせ、その下に、「もんしろちょう」の言葉の数を書かせる。20回出てくることを確認したり、キーワードが「もんしろちょう」であることを確認したりさせる。	もんしろちょうという言葉の数を数えている。 (観察) 読む
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

3 時間目

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて「段落ごとに小見出しをつけよう」	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・本時で取り扱う段落をもう一度音読する。	
3 段落ごとに小見出しをつける。 (個人学習)	15	・形式段落に書かれていることを短い言葉でまとめる。 ・小見出しは短い言葉でまとめることが大切であることを説明する。	

		① 短い言葉でまとめる。 ・各段落の小見出しは下記のように よい。8段落については、教師が始めに書くとよい。 ① もんしろちょうの紹介 ② 問い ③ 実験の紹介 ④ 実験の準備 ⑤・⑥・⑦ 実験1 (かだん) ⑧ つなぎ ⑨・⑩ 実験2 (造花) ⑪・⑫・⑬ 実験3 色紙 ⑭ 実験の結果 ⑮ まとめ(筆者の言いたいこと)	段落ごとに小見出しを書いている。(観察・ノート) 読む
4 全体で確認する。(一斉で確認)	10	段落の小見出しについて確認する。 ノートに試写させる。試写が終了した児童には、実験の下に絵を描かせるなどの指示をする。	
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

4 時間目

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて 一番大事な「もんしろちょう」が書かれている段落はどれか考えよう。	5	・黒板にめあてを書き、ノートに試写させる。 集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・本時で取り扱う段落をもう一度音読する。	
3 一番大切な「もんしろちょう」が書かれている段落選び、その理由をノートに書く	10	児童に、段落を一つ選ばせ、その理由をノートに書かせる。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	一番大事であるという段落を選び、理由を書いている。(ノート・観察) 読む

4 全体で確認する。(一斉で確認)	10	・一番大切な「もんしろちょう」が書かれている段落と、その理由を確認する。	
5 教師が黒板にまとめをする。	10	⑭段落の「もんしろちょう」→実験のまとめ ②段落の「もんしろちょう」→問い *段落の役割を確かめることにつながる。	
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	

5 時間目

教科書 p 38 の (2) の問題をノートにまとめる。教科書会社のワークシートを活用してもよい。ここが大事の活用 (結果と結論)

6 時間目

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1 本時のめあて十五段落について考えようを視写する。	5	・黒板にめあてを書き、ノートに視写させる。集中して試写する習慣が身に付くように、2分程度たったら、音読を開始することを予告しておく。	
2 本文の音読をする。	5	・全文を通読させる。読むときに、歯切れ良く音読することが、内容を理解する上で基礎となることを伝える。 ・本時で取り扱う段落をもう一度音読する。	
3 15段落はもんしろちょうという言葉が一度も出てこない。その段落は必要かどうか考える。	10	児童に、必要か不必要か選ばせ、その理由をノートに書かせる。 (全体で確認する前に、ペア学習・グループ学習などが入ると、交流活動になる。はばプラ)	
4 全体で確認する。(一斉で確認)	10	・必要だという考えが多く出されると思う。そこで、2段落の「もんしろちょうにきいてみればわかるのですが」という言葉に着目させ、そこ15段落がつながっているという意識を持たせたい。	ここは、もう少し教材研究してみます。まだ、ちょっとあやふやです。
5 筆者の主張をまとめる。		・15段落を視写させ、ここが、筆者の主張であることを確認する。	
6 本時の学習の自己評価をする。	5	・めあてにもどり、自己評価をさせる。	